

ほっこりだより

東向日キリスト教会

京都府向日市森本町下森本6-5

Tel. 075 (931) 5934

http://www.h-mukou-ch.jp/

第53号 2010年6月6日 発行

父の日に寄せて

六月二十日は父の日ですが、母の日ほど盛り上がりません。しかし、父の存在は大きいと思いませんか。少し考えて見ましょう。

父は黙って見守る存在。

多くの父親は、子どもに無関心ではなく、家族のために忙しく働いているので、ゆとりが無い場合が多々あります。しかし、子どもを大切にしていることは事実であり、黙って見守ることが多いのです。これは少し、言い訳に聞こえるかも知れませんが。普段は黙っていても、子どもが悩み苦しんでいる時は、父親も苦しみながら見守っているのです。そして、冷静に注意したりできず、結果的に感情的になるのです。

聖書に見る父親像

旧約聖書には、多くの父親が登場しますが、その一人、ダビデ王について取り上げます。ダビデの三男にアブシャロムがいました。彼の容姿は非常に美しく人々に人気のある王子でした。今で言うイケメンだったのです。しかし、周囲の側近にそそのかされて、父ダビデに反逆し、父の嫌がる行動をとり、王位をねらったのでした。ダビデにとってどれほど辛いことだったでしょうか。

両方の軍隊が戦いましたが、アブシャロムは戦いの中であえなく無残な戦死をします。謀反を起した相手とは言え、息子であります。この悲報を聞いたダビデは泣き悲しむのでした。

「わが子アブシャロム。ああ、私がお前に代わって死ねばよかった。わが子よ。わが子よ。・・・」と。父親はどれほど、息子が荒れ果て、暴言を吐き、暴力を振るっても心の中では、息子を案じ心配しているのであります。息子が立ち直るのを見守りながら辛抱して待っているのです。

父親にどれだけ感謝できるか

このような父親にどれだけ感謝出来るでしょうか。もの言わぬ頑固な父、子どもの頃殴られたとか、何もしてくれなかったという記憶しかない父親をどれだけ受入れて感謝できるでしょうか。とても出来そうにないと考えてしまいます。

しかしながら、それでも自分の存在は、父があつたからです。聖書に「あなたの父と母を敬いなさい。」と教えがあります。もしも、老いて行く父親と和解し、認め、感謝することが出来るならこれほど幸いなことはありません。それは家族や子どもにとっても幸いなのです。やがて父親を敬うことは、次の世代へと受け継がれるからなのです。

天の父なる神が見ておられる

私達には、もう一人の父がいます。それは父なる神です。この神は完全に偉大な父であります。しかし、身近にお父さんと呼べる存在であります。私達を「高価で尊い。わたしはあなたがたを愛している」と言われていきます。私達をどのような時も見守っておられるお方です。私達がイエス・キリストを信じてこの父なる神の子どもとされるなら、

イベントのお知らせ

6月20日(日) 13時～

「認知症についての学び」

向日市社協より講師派遣

7月11日(日) 10時半～

コンサート「賛美礼拝」

東賢作夫妻による

どなたでもお気軽にお出かけください。

聖書の続編に書かれている次のことばを受入れることができるのです。「子よ。年輩いた父親の面倒を見よ。生きている間、彼を悲しませてはならない。たとえ彼の物覚えが鈍くなっても、思いやりの気持ちを持って。自分が活力にあふれているからといって、彼を軽蔑してはならない。」
幸いな父の日を共に迎えたいと願って止みません。

教会案内図です



龍馬暗殺。その深い怨讐を越えた十字架の和解

坂本直は、坂本龍馬の姉の子。勝海舟の塾で学び、海援隊で活躍しました。

ところが龍馬が暗殺された後、新政府の下、北海道行政にあたりますが、免職。その後、朝廷は直を龍馬の養子として宮内庁の舎人として働かせます。

しかし、直は「耶穌教（キリスト教）を信奉したこと」により、またも免職。

驚くべきことに直は「龍馬を切った男、今井信郎」（ほんしんりだより五十二号で紹介）に会う事になるのです。柴田澄雄という人が、今井の住んだ静岡県の村で今井の妻から聞いたそうです。今井の元に当時大阪に住んでいた龍馬の息子、直から手紙が届きました。

そこには、「父親の法要をやめるので、ぜひ出席して貰いたい」旨の内容が書かれていました。この時、今井は、「恐ろしくこの法要に出席すれば、再び家には戻っては来られない、殺される」と思っていました。

しかし、俺も武士だと死ぬ覚悟で家を出しました。ところがその息子が非常に歓待して、「過去のごことは忘れてこれから新しい日本のために共にやりますよ。お目にかかれて本当に嬉しい」と語ったそうです。直と今井が深い怨讐を越えて、手を握り合った背後にキリストの十字架の和解が互いの間にあったからでしょう。（朝日新聞記事より一部抜粋）

ちよっといひ話

A子さんは現在七十六歳。

アップした髪は艶があり、背中もシヤンとまっすぐだ。同イベントのボランティアとして、仲良くなった。少し手があいた時

「ハイ、どうぞ、プレゼント」

とA子さんが私に何かを差し出した。小さく折った折鶴が、小袋に五羽入っていた。

「わあー、すごい！ きれい！」

と感心していると、A子さんは以前の体験談を話してくれた。

バスの中で京都観光の外国人に

「どうぞ」

と折鶴を差し出したら

「ノーサンキュー」

と恐い顔をしてにらまれたらしい。

買ってくれと言っていると、誤解されたみたいだ。

だから今は

「プレゼント フォー ユー」

そこからいっぱい話が弾むそう。

「だからたくさん作るのよ」

と言って、A子さんは笑う。その笑顔はとても輝いていた。



詩

そっと山を見上げると

大木と並んで

やさしく桜が咲いている

自然の力の美しさよ

神様は時に応じて

豊かに恵みを与え

私達の心を喜ばせてくれる

草花に負けないように

与えられた命を生かし

互いに助け合い支えあって

神様の恵みに感謝しよう

Y子

短歌

空澄みてしだれ桜の美しさ

主のみ心の広さ知るなり

H子

リサイクルの制服誰よりも着こなして

高一の娘光燦燦

古都葉

俳句

教会のお花見空は青く澄み

H子

山すその桜並木や嵐山

新緑と桜をへぐる保津川下の

Y子

春愁や雨に濡れてるバスタオル

古都葉

M子